

第 1 回富山県リカレント教育等産学官連携推進会議 (R1. 7. 1)  
 における委員からの主なご意見

経済団体

(機電工業会：谷川会長)

- ・ リカレント教育だが、誰を対象にしているのか。すべての人が対象となると進め方が難しくなる。対象者によっては目的も違ってくるし、アンケートを取るにしてもその辺を整理しないといけない。
- ・ 今やっているリカレント教育を活用していくことも検討していくべきであり、それで足りなければ、プラスアルファを考えていけばよい。
- ・ 企業側から講師を提供することはできる。

(経営者協会：金岡会長)

- ・ 通常教育は若者が主体であって、税金を投入して国がある程度責任をもってやっているが、リカレント教育はどこが主体となって進めていくのか。個人の責任でやるのか、企業の責任でやるのか、その辺が分かりにくい。
- ・ 人生 100 年時代において学び直しという考え方自体は間違っていない。
- ・ リカレント教育は個人というより社会のために誰かが主体になってやるイメージではないか

(アルミ産業協会：山下会長)

- ・ 一度企業に入って、具体的な仕事に就いて、具体的なテーマにぶつかったりとか、そういうときにもう一度学び直す機会があるというのは、中小企業側としてもメリットがある。
- ・ わが社の話で言えば、社員自体が学びたいという意識、具体的なテーマを見つけて、例えば 1 年でも勉強して戻ってきてくれれば、企業としても大変力になると思う。

高等教育機関

(富山大学：齋藤学長)

- ・ 会議の目的として、県の産業界に貢献するために我々大学教育の資源をいかに開放するかということがあると思う。
- ・ データサイエンスが非常に重要視されてきていて、企業からの要請があれば、専門家もいるので、企業、行政から要請があれば支援できる。
- ・ あまり分野が多いと対応できるかなというところがある。大学側の特色があるので、ある程度分野を絞っていただきたい。
- ・ 県が主体でやるという趣旨で、各大学でやるというよりも、県内大学が協力するという形で進めていけばどうか。

(県立大学：下山会長)

- ・ 企業も即戦力を求めており、企業の中の人たちの次のステップアップという時に大学に求めるというのも理解しており、県立大も貢献していかなければならない。
- ・ 自分の周りにも転職する者が多いが、転職や起業の際に今まで全く知らなかった財務のこととか、ベンチャーとの付き合い方とか、人とのネットワークの作り方とか、支援制度があるとか、成功例とかそういうことを教えてもらうというようなことも切り

口になると思う。

(富山高専：賞雅校長)

- ・ 欧米ではリカレント教育といえ、大学院に行き直すとか、フルタイムが基本であるが、一部履修するのもしリカレントだし、どこまでがリカレント教育なのか。キャリアアップのためなのか、ただ知識を増やすだけなのか、その辺をはっきりさせないといけない。
- ・ 最近では企業も育休1年認めるとか、2年認めるとかそういう形になってきているが、リカレント教育もそういうところまでやるのか。それともここ2～3年で富山県でできることをやるのか。その辺の姿勢を明確にしておくべきだと思う。

(放送大学：北村所長)

- ・ 富山県の学習センターには40～50歳くらいの方々、いわゆる現役の人たちが多く学び直しにきており、その方々をどういう形で会社側がバックアップしてあげるかが大切。
- ・ 技術系だけではなく、社会系の資格とか、心理士系の資格とかを取りにきている方々も多くて、若い人ばかりではなく、ある程度の年代になって役職についてから目的をもって来られる方もいる。
- ・ 企業のニーズ、従業員のニーズが分かれば、放送大学として学び直しのお手伝いはできる。

(高岡法科大：根田学長)

- ・ 先日、コンプライアンス経営というテーマで講座を開いたが、受講者は5名しかいなかった。果たしてニーズがあるのかどうか。
- ・ ニーズが分かれば大学としてもそれなりにお手伝いもできるが、その辺のミスマッチがある限り尻すぼみになるので、ニーズと供給を結びつける工夫が必要。

(富山国際大学：高木学長)

- ・ 国際大は文系の大学で、国際化、グローバル化の教育を強化しており、最近ではICTの教育も始めたが、ニーズがあれば、協力はしたい。
- ・ アンケートを取るのであれば、漠然とやるのではなく、今あるカリキュラムを示したうえで、この中にはないけれども、こういうのをやりたいみたいな、具体的なアンケートを取るべき。
- ・ 教育を提供する側からすると、新たに始めるよりも、すでに持っているリソースを活用していく方が効果的、効率的である。

(富山短期大学：宮田学長)

- ・ 企業からの要請によるという表記があるが、例えば、医療、福祉、保育、教育とかこの辺の分野をどうしていくのか。
- ・ うちの短大としては、情報、経営、ビジネス系は大したことはできないと現場からの声があるが、介護分野、外国人の課題、ICTの活用とか、そういったテーマは考えていける。

(富山福祉短期大学：炭谷学長)

- ・ 看護師のスキルアップ研修とかそういう講座を設けているが、ニーズがあっても現場が忙しすぎて職員を研修に出せないという状況があり、働き方改革とかそういった部

分も大切である。

- ・ 県としてどういった分野の人材を育成してほしいのかということに焦点を当てる必要もある。日本の介護を支えるためにも、職業志向的な誘導みたいなものがあったもよい。

#### 労働団体

(連合富山：社会長)

- ・ 現場の声として、リカレント教育はよく分からないという一方で、ニーズとして高等教育で新しい技術を学びたいという声は確実にある。
- ・ 職業訓練で、技術のさらに高みを目指したいというニーズも案外多い。
- ・ 他、国家資格を取りたいとか、社会貢献の場を得たいとか様々なニーズがあるし、若い人、高齢者、離職した女性の再就職など世代によってもニーズは違うので、その辺は整理する必要がある。
- ・ 就職氷河期世代で非正規の方が370万人いるが、この働き盛りの方々に光を当てないといけない。その辺も今回学びの場を作るという意味で県が先駆者的に取り組んでいただきたい。

#### 公的機関

(富山職業能力開発促進センター：相楽所長)

- ・ こちらは、法律に基いたセーフティーネット的な立場でやっている部分もあり、漠然とした目的だとお手伝いできることが限られてくる。対象者とか期間とかそういったところで少し難しいかと思う。

(生涯学習カレッジ：山崎学長)

- ・ リカレント教育は、学校を修了し社会で働いている人が再び学校で学ぶことができるようにするという優れた画期的な制度である。
- ・ 対象をどこに定めるのが非常に大きな課題になるが、どの分野まで拾っていくのか、どこまで対応できるのか考えて進めていく必要がある。

#### 学識経験者（県顧問）

(石塚県顧問・副会長)

- ・ 大学の修士課程は講義を受けて単位を取らなければならないので、会社を休まなければならないが、博士課程に関しては、企業でやっている演習も単位として認めるので、課程を修了しやすく、こちらを充実させようと思っていたが、現状では入学者は少ない。
- ・ レベルを下げずに博士課程の入学者の敷居をもう少し低くするような形がとれれば、リカレント教育として貢献できるのではないか。

(遠藤県顧問・会長)

- ・ 新時代に求められているリカレント教育はまさに人がいかに社会に貢献し、社会を豊かにし、あるいは幸せに生きていけるのかを考える取り組みだと思う。
- ・ 委員の皆さんのご意見を事務局でとりまとめ、小委員会に引き継いで議論を深め、その後、改めて委員の皆さんにフィードバックしたい。